

証券コード 2136  
(発送日) 令和6年6月7日  
(電子提供措置開始日) 令和6年6月6日

株 主 各 位

神奈川県横浜市西区楠町8番地8  
株 式 会 社 ヒ ッ プ  
代表取締役社長 田 中 伸 明

## 第29期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第29期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、以下のウェブサイトへアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

### 【当社ウェブサイト】

<https://www.hip-pro.co.jp/ir/meeting.html>



また、電子提供措置事項は、上記当社ウェブサイトのほか、以下のウェブサイトにも掲載しておりますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

### 【株主総会資料 掲載ウェブサイト】

<https://d.sokai.jp/2136/teiji/>



なお、当日ご出席されない場合は、書面（郵送）により議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、令和6年6月26日（水曜日）午後5時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

## 記

1. 日 時 令和6年6月27日（木曜日）午前10時
2. 場 所 神奈川県横浜市西区楠町8番地8  
当社本店会議室  
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)
3. 目的事項  
報告事項 第29期（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）事業報告及び計算書類の内容報告の件

### 決議事項

- |       |                          |
|-------|--------------------------|
| 第1号議案 | 剰余金処分の件                  |
| 第2号議案 | 定款一部変更の件                 |
| 第3号議案 | 取締役6名選任の件                |
| 第4号議案 | 補欠監査役1名選任の件              |
| 第5号議案 | 退任取締役に対し退職慰労金及び特別功労金贈呈の件 |

### 4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）

議決権行使書面において、各議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとしてお取り扱いいたします。

以 上

- ~~~~~
- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
  - ◎本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りいたします。
  - ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、その旨、修正前及び修正後の事項を前述の電子提供措置事項掲載ウェブサイトに掲載させていただきます。

# 事業報告

(令和5年4月1日から  
令和6年3月31日まで)

## 1. 会社の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当事業年度において、製造業を中心とした顧客企業では、自動車、半導体、家電、製造装置など、いずれの業種においても製品開発への積極姿勢を維持しており、開発設計技術者の増員に向けた動きは活発です。当社への技術者を求めるニーズも堅調に推移しました。

当社では、金沢営業所の開設や技術社員への新たな手当の導入などの施策を実施し、技術者のスキルアップと速やかな稼働のための新規顧客の開拓や、適正レートの確保に向けた交渉強化を推進しました。加えて技術者が安心して働いていける社員が中心となる会社づくりに努め、新卒及び中途技術者の採用強化を行っております。

このような状況のなか、技術者数の増加に加え早期稼働の推進によって新卒技術者を含めた稼働が進み、稼働人員は前年同期を上回りました。技術料金は技術者ニーズが更に高まるなかで、継続的なレートアップ交渉により前年同期を上回りました。稼働時間は前年同期と同水準となりました。

また、新たな手当の導入や賞与の増額など技術社員の待遇改善を実施したことで売上原価は増加し、販売費及び一般管理費では技術者採用の促進に伴う費用が増加しましたが、その他経費の減少により全体では前年同期から微増に留まりました。

そして令和5年8月2日に当社創業者であり代表取締役会長兼社長であった田中吉武氏が逝去されたことに伴い、同氏に対する特別功労金を特別損失に計上し、役員退職慰労引当金に係る繰延税金資産の回収可能性の見直しを行いました。

これらの結果、当事業年度の売上高は5億6千万円と前事業年度比3.4%の増収、営業利益は5億5千4百万円と前事業年度比4.1%の減益、経常利益は5億5千万円と前事業年度比7.0%の減益、当期純利益は3億8千8百万円と前事業年度比3.2%の減益となりました。

なお、当社事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

事業区分別の売上実績は、次のとおりであります。

(単位：千円)

事業区分	第28期 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)		第29期 (自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日)	
	売上高	構成比	売上高	構成比
輸送用機器関連	1,677,631	30.7%	1,797,898	31.8%
機械関連	765,899	14.0%	786,791	13.9%
情報通信・精密機器関連	998,387	18.2%	961,390	17.0%
電気電子機器・半導体回路関連	768,067	14.0%	765,762	13.5%
情報処理・ソフトウェア関連	1,265,290	23.1%	1,348,286	23.8%
合計	5,475,278	100.0%	5,660,128	100.0%

② 設備投資の状況

当事業年度は、重要な設備投資はありませんでした。

③ 資金調達の状況

当事業年度は、増資、社債発行による資金調達はありませんでした。なお、運転資金等は自己資金及び金融機関からの借入金により賄いました。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第 26 期 (令和3年3月期)	第 27 期 (令和4年3月期)	第 28 期 (令和5年3月期)	第 29 期 (当事業年度) (令和6年3月期)
売 上 高 (千円)	5,006,217	5,188,579	5,475,278	5,660,130
経 常 利 益 (千円)	532,967	587,935	592,281	550,939
当 期 純 利 益 (千円)	364,257	403,595	401,538	388,586
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	91.63	101.53	101.01	97.91
総 資 産 (千円)	5,121,177	5,585,679	5,768,040	6,144,020
純 資 産 (千円)	3,068,369	3,352,709	3,634,991	3,810,570
1 株 当 たり 純 資 産 額 (円)	771.88	843.41	914.42	969.56

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
2. 1株当たり純資産額は、自己株式を控除した期末発行済株式総数に基づき算出しております。

## (3) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社の状況  
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況  
該当事項はありません。

#### (4) 対処すべき課題

当社の主要事業である技術サービス事業の中心となるのは人材です。そのため優秀な技術者の確保とキャリア形成支援が重要であり、多様な働き方に応える受注の獲得が必要です。技術者と顧客に選ばれる強い会社を目指していくために、対処すべき課題は以下の通りとなっております。

##### ①優秀な人材の確保

当社事業を成長させるためには優秀な人材が欠かせません。当社の技術者は従来組織内での働き方とは異なり、真のプロフェッショナルとして会社という組織を超えて横断的に設計・開発をおこないます。そのため、当社ならではの働き方や価値観、将来の方向性を正しく伝え共感を得る必要があります。社員からのメッセージや動画での解説、採用ツールを駆使して、当社の魅力を伝え積極的で丁寧な仲間づくりを行ってまいります。

##### ②受注の獲得

安定的に受注量を確保することは、高い稼働率を維持するために重要です。また技術者のキャリア形成と多様な働き方に応えるために、幅広い業種や地域の受注を獲得していくことも大切です。全国に営業担当を配置し、顧客に寄り添った密接な対話から技術者ニーズをいち早く把握することに努め、最適な提案ができる社内連携の構築を進めることで、取引先の拡大を図ってまいります。

##### ③キャリア形成支援

社員から選ばれる企業として重要なことは「自らの成長可能性が感じられるか」であると考えています。主体的なキャリア形成が必要でありその環境の整備が大切です。様々なプロジェクトに参画してスキルを高めたい、未経験でも開発業務に携わりたいなど、一人ひとりが思い描くキャリアの実現のために、当社は長期的な視点にたった教育や幅広い業務の確保、働きやすい環境の整備に取り組んでまいります。

当社ではこれらの施策を通じて、個々のキャリアアップを図り技術者の価値を高めることこそが、顧客価値の向上にもつながると考えております。経営理念で掲げる「社員の永続的成長」は最優先課題であるため、人材への投資を行いキャリア形成支援企業としての成長を目指してまいります。

(5) 主要な事業内容（令和6年3月31日現在）

当社は、大手メーカーを中心とした各顧客企業に対して、機械、電気・電子、ソフトウェア分野において設計・開発などの技術サービスを提供しております。当社の提供するサービスは、従業員である技術者が担っており、各顧客企業に技術者を派遣して設計・開発等の業務にあたり、又は顧客から設計・開発等の業務を請負うことにより提供しております。当社の主要顧客企業を事業区分別に見ると下表のとおりであります。

顧客企業の事業区分	当社の行う設計・開発の内容
輸送用機器関連	自動車(ボディ、シャーシ、エンジン、各種内外装品など)、車載用製品(カーエアコン、カーナビゲーション、エンジン制御装置・各種電子、制御装置など)、航空機、船舶など
機械関連	半導体製造装置、サービス用機器、アミューズメント機器、産業用ロボットなど
情報通信・精密機器関連	AV機器(液晶テレビ、プロジェクターなど)、携帯電話、プリンター、タブレットPC、医療機器など
電気電子機器・半導体回路関連	IOT機器(調理機器、洗濯機など)、ドローン、デジタルカメラ、電動工具、センサー、LSIなど
情報処理・ソフトウェア関連	通信システム(5Gなど)、自動運転システム(画像認識など)、AI、医療検査システム、制御システムなど

(6) 主要な営業所（令和6年3月31日現在）

本 社	神奈川県横浜市西区	
営 業 所	仙 台 営 業 所	宮城県仙台市青葉区
	北 関 東 営 業 所	埼玉県さいたま市大宮区
	東 京 営 業 所	東京都渋谷区
	横 浜 営 業 所	神奈川県横浜市西区
	浜 松 営 業 所	静岡県浜松市中央区
	名 古 屋 営 業 所	愛知県名古屋市中村区
	金 沢 営 業 所	石川県金沢市北安江
	大 阪 営 業 所	大阪府大阪市北区
福 岡 営 業 所	福岡県福岡市博多区	

(注) 令和5年7月12日付で、金沢営業所を開設いたしました。

(7) 使用人の状況（令和6年3月31日現在）

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
819名	15名増	38.3歳	10.9年

(注) 使用人数は就業員数であります。

(8) 主要な借入先の状況（令和6年3月31日現在）

借入先	借入額
株式会社横浜銀行	400,000千円
株式会社三菱UFJ銀行	200,000千円

(9) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。



## 2. 株式の状況（令和6年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 13,500,000株
- (2) 発行済株式の総数 3,975,300株
- (3) 株主数 3,365名
- (4) 大株主（上位10名）

株主名	所有株式数	持株比率
田中吉武	650,600株	16.55%
株式会社ベストプランニング	612,000株	15.57%
ヒップ従業員持株会	373,300株	9.49%
岡田健樹朗	95,000株	2.41%
田中佐津枝	91,800株	2.33%
株式会社SBI証券	63,297株	1.61%
有限会社福田商事	55,000株	1.39%
尾藤博一	45,500株	1.15%
株式会社神奈川銀行	45,000株	1.14%
株式会社横浜銀行	45,000株	1.14%

- (注) 1. 上記大株主の田中吉武氏は、令和5年8月2日に逝去されましたが、令和6年3月31日現在において相続手続きが未了のため、同日現在の株主名簿に基づき記載しております。
2. 当社は、自己株式を45,099株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
3. 持株比率は、自己株式（45,099株）を控除して計算しております。

## 3. 新株予約権等の状況

- (1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況（令和6年3月31日現在）  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。

#### 4. 会社役員 の 状況

##### (1) 取締役及び監査役の状況 (令和6年3月31日現在)

会社における地位	氏 名	担当及び重要な兼職の概況
代表取締役社長	田 中 伸 明	
常務取締役	廣 瀬 透	
取締役	大 原 達 朗	事業本部長 兼 経営企画部長
取締役	倉 掛 達 也	西日本事業部長
取締役	陶 山 五 彦	神奈川事業部長
取締役	及 川 善 雅	株式会社プレス 代表取締役
取締役	池 田 由 美 子	公認会計士 池田公認会計士事務所
常勤監査役	石 樽 享 司	
監査役	佐 藤 正 八 郎	
監査役	前 田 泰 志	弁護士 前田綜合法律事務所 税理士 前田泰志税理士事務所

- (注) 1. 取締役 及川善雅氏及び池田由美子氏は社外取締役であります。
2. 監査役 佐藤正八郎氏及び前田泰志氏は社外監査役であります。
3. 当社は、東京証券取引所に対して、取締役 及川善雅氏、取締役 池田由美子氏、監査役 佐藤正八郎氏及び監査役 前田泰志氏を独立役員とする独立役員届出書を提出しております。
4. 取締役 池田由美子氏は公認会計士の資格を、また、監査役 前田泰志氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当事業年度中に退任した取締役は次のとおりであります。

氏 名	退任理由	退任時の地位・担当及び重要な兼職の状況	退任日
田 中 吉 武	逝去	代表取締役会長 兼 社長	令和5年8月2日

6. 当事業年度中の取締役の地位及び担当の異動状況は次のとおりであります。

氏名	異動前	異動後	変更年月日
田中吉武	代表取締役社長	代表取締役会長 兼 社長	令和5年6月29日
田中伸明	専務取締役 経営企画部長	代表取締役社長	令和5年8月8日
廣瀬透	常務取締役 人事部長 総務担当	常務取締役 人事部長	令和5年6月29日
	常務取締役 人事部長	常務取締役	令和6年1月24日
大原達朗	取締役 事業本部長	取締役 事業本部長 兼 経営企画部長	令和5年8月8日
倉掛達也	取締役 西日本事業部長 中日本担当	取締役 西日本事業部長	令和5年6月29日

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社は会社法第427条第1項に基づき、当社定款において会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定めておりますが、現時点においては、取締役（業務執行取締役等であるものを除く）及び監査役と個別の責任限定契約は締結しておりません。

## (3) 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、取締役会において、役員個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針及び役員規程の内容と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

役員個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は次のとおりです。

### ①基本方針

当社の役員報酬は、役員が永続的な企業価値の向上への意欲向上に機能するように会社の経営状況、世間水準を考慮して決定し、固定報酬と退職慰労金で構成する。

#### (固定報酬)

役員の固定報酬は、役職及び職責、従業員給与とのバランスを考慮して決定し、毎月定額を金銭で支給する。

取締役の固定報酬額は、株主総会が決定した報酬総額の限度内において取締役会で決定する。

監査役の固定報酬額は、株主総会が決定した報酬総額の限度内において監査役の協議で決定する。

当社の役員の固定報酬の額またはその算定方法の決定に関する方針は、当社役員規程に定められており、当該規程の決定権限は取締役会及び監査役会が有する。役員規程には報酬の基準額、役位毎の倍率及び支払い方法が定められており、内容を改定する場合には取締役会の決議及び監査役の協議が必要になる。

#### (退職慰労金)

退職慰労金は役員退任時に役員規程に定める基準額、役位別倍率、在任期間に従い算出する。

また、在任中特に功績が顕著であったと取締役会で認めた役員については役員規程に定めた基準額、役位別倍率に従い功労加算金を算出する。

退職慰労金、功労加算金は、その支給について退任取締役については取締役会の決議に、退任監査役については監査役の協議に一任する旨が株主総会で決議されたのち取締役会決議または監査役の協議を経て退任時に一時金として支給する。

#### ②基本報酬の個人別の報酬等の額の決定に関する方針

当社の取締役の報酬額は、株主総会で承認を得た範囲内で、取締役会に於いて一任決議を受けた代表取締役が担当役員作成の原案を基に、個々の取締役の役位、責務に相応しい水準を考慮し、担当部門の当期・中長期の企業価値向上への貢献度を総合的に勘案して決定する。

監査役の報酬額は、株主総会で承認を得た範囲内で、監査役の協議によって決定する。

(4) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

区 分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動 報酬等	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	127,858	62,369	—	65,489	—	6
監査役 (社外監査役を除く)	6,554	6,242	—	312	—	1
社外役員	7,499	6,991	—	507	—	4

- (注) 1. 上表には、令和5年8月2日をもって退任した取締役1名を含んでおります。
2. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 退職慰労金は、当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額及び特別損失に計上した役員退職慰労金(功労加算金)の合計額を記載しております。
4. 取締役の報酬限度額は、平成18年6月29日開催の第11期定時株主総会において年額150,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、5名(うち、社外取締役は0名)であります。
5. 監査役の報酬限度額は、平成17年2月8日開催の臨時株主総会において年額12,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は、2名であります。
6. 当事業年度における当社の取締役の報酬額は、株主総会で承認を得た範囲内で、取締役会に於いて一任決議を受けた代表取締役会長兼社長 故 田中吉武氏が常務取締役が作成した原案を基に、個々の取締役の役位、責務に相応しい水準を考慮し、担当部門の当期・中長期の企業価値向上への貢献度を総合的に勘案して決定しております。なお、代表取締役会長兼社長に委任した理由は、当社を取り巻く環境、経営状況等を最も熟知し、総合的に取締役の報酬額を決定できると判断したためであります。

## (5) 社外役員に関する事項

- ① 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係
- ・取締役 及川善雅氏は株式会社プレスの代表取締役であります。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。
  - ・取締役 池田由美子氏は池田公認会計士事務所を開設しております。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。
  - ・監査役 前田泰志氏は前田綜合法律事務所及び前田泰志税理士事務所を開設しております。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。
- ② 他の法人等の社外役員等としての重要な兼任状況及び当社と当該他の法人等との関係
- 該当事項はありません。
- ③ 当事業年度における主な活動状況

		出席状況、発言状況及び 社外取締役期待される役割に関して行った職務の概要
取締役	及川善雅	当事業年度に開催された取締役会14回全てに出席いたしました。企業経営者としての豊富な知識、経験から、経営全般に対する監督や意見陳述を行うなど、意思決定の妥当性、適正性を確保するための適切な役割を果たしております。
取締役	池田由美子	当事業年度に開催された取締役会14回全てに出席いたしました。主に財務・会計等に関し、公認会計士としての豊富な経験と専門的見地から監督、助言等を行うなど、独立、公正的な立場から経営陣に対して実効性の高い監督を行う役割を果たしております。
監査役	佐藤正八郎	当事業年度に開催された取締役会14回及び監査役会8回全てに出席いたしました。警察官としての経験、見識から、適宜発言を行っております。
監査役	前田泰志	当事業年度に開催された取締役会14回及び監査役会8回全てに出席いたしました。弁護士、税理士としての専門的見地から、適宜発言を行っております。

## 5. 会計監査人の状況

(1) 名称 アーク有限責任監査法人

### (2) 報酬等の額

	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	19,000千円
当社が会計監査人に支払うべき 金銭その他の財産上の利益の合計額	19,000千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をしました。

### (3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及び解任の理由を報告いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。（令和6年3月31日現在）

### (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 取締役会は、法令遵守体制の確保に関連する規程・マニュアル類を整備し周知徹底するとともに、役社員が高い倫理観を持って職務の執行に当たるように、内部統制システムを含む制度を整備する。
- ② 監査役は監査役会規則に基づき独立した立場から取締役の職務執行を監視し、その適法性を検証しており、法令、定款の違反を予想、発見した場合は直ちに監査役会、取締役会に報告し、是正処置をとることとする。
- ③ 内部監査室が定期的な内部監査を通じ当社の企業活動が法令、定款に基づき実施されているかを調査し、代表取締役社長に報告しコンプライアンス体制の有効性を検証している。
- ④ 企業倫理をはじめとする基本方針の決定など、コンプライアンス体制の基盤整備を行い、全従業員が法令、定款、社内規程及び社会規範を遵守のうえ社会的責任を果たし企業理念を実践するように、定期的な社内教育を行うなど周知徹底を図ることとする。

### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 取締役の職務の執行に係る情報・文書（電磁的記録を含む）の取扱いは、文書管理規程に従い作成のうえ、適切に保存及び管理を行い、取締役及び監査役が常時これらの文書を閲覧できる状態を維持することとする。
- ② 必要な関係者は、必要に応じてこれらの文書を閲覧できるものとする。

### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 代表取締役社長の直属部署として内部監査室を設置し、定期的に内部監査を実施する。
- ② 内部監査室の監査により法令、定款違反、その他損失の危険のある業務執行が発見された場合には、その内容について、直ちに代表取締役社長、取締役会及び監査役会に報告するものとする。



- ③ リスク管理規程に基づき、各部署所管業務に付随するリスク管理は担当部署が行うとともに、事業部会にて全社横断的にリスク管理状況を監視することとする。不測の事態が発生した場合には、リスク対応委員会を設置し、適切かつ迅速に対応を行い、損失を最小限に止める。
- (4) **取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**
- ① 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、迅速かつ確かな意思決定を行う体制を確保する。
- ② 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、職務権限規程及び稟議規程等の意思決定ルールに基づき個々の取締役の職務権限を明確化することにより、効率的な達成方法を確保する。
- (5) **当社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**
- 当社は、企業集団が存在しないので該当事項はありません。
- (6) **監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項**
- 監査役が必要とする場合は、監査役の職務を補助する使用人を速やかに配置するものとする。なお、使用人の人選は監査役会の意向を尊重し、協議のうえ決定する。
- (7) **前号の使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項**
- 監査役補助人は取締役の指揮命令を受けないものとし、その人事異動、人事評価、懲戒等の人事に関する事項に関しては、監査役会と協議のうえ決定するものとする。また、監査役の職務を補助すべき使用人は他の職務を兼務せず、監査役の指揮命令に従うものとする。

#### (8) 監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、職務執行に関して法令、定款違反行為及びリスク顕在化の事実を確認した場合、当社に重大な影響を及ぼす事実を知った場合は、代表取締役社長への報告と同時に、監査役に報告する体制を構築する。

監査役は取締役会及びその他重要な会議に必要なに応じて出席し、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況の把握を行う。また、その議事録の写しは監査役に配布される。

前項に関わらず監査役は必要なに応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができる。

#### (9) 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

役社員が監査役に対して報告を行った場合、当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁止することをコンプライアンス規程に定めている。

#### (10) 監査役職務の執行について生じる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生じる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について生じる費用の前払又は支払等の請求をした場合には、当社諸規程の定めに基づき速やかに支払処理を行う。なお監査役は費用支出に当たっては、その妥当性を十分留意するものとする。

#### (11) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 役社員の監査役監査に対する理解を深め、監査役監査の環境を整備するように努める。
- ② 代表取締役社長は、監査役と定期的な会合を持ち、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換を行うなど、意思疎通を図るものとする。
- ③ 内部監査室との連携を持ち、情報を共有化し、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図る。また、必要なに応じて内部監査室に対して調査を求めることができる。

(12) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

① 取締役会の主な運用状況

取締役会は毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催され、重要事項の報告を受け迅速かつ的確な意思決定を行うとともに、取締役の職務の執行状況を監督しています。

また、財務に係る内部統制に関しては定例会を毎月開催し、討議・報告内容が取締役会で報告されております。

② 監査役会の運用状況

各監査役は取締役会に出席し、必要に応じて発言、調査を行い取締役の監視を行っております。各部署へ往査を実施し、法令等の遵守状況、リスク管理状況、重要書類等の管理状況を主に監査し、使用人の職務執行状況の監視を行っております。

また、会計監査人、内部監査室長とも定期的にコミュニケーションをとり、情報を共有することで、監査の実効性の確保を図っております。

以上を実施することで、取締役及び使用人の職務執行の法令及び定款への適合状況を監視、監督しております。

③ 内部監査の運用状況

年2回の定期監査を通じ当社の企業活動が法令、定款に基づき実施されているか調査しております。

調査の結果、当事業年度において法令遵守に違反する企業活動は無く、コンプライアンス体制は有効に機能していると判断しております。

# 貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
<b>流 動 資 産</b>	<b>4,541,404</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>1,635,621</b>
現金及び預金	3,755,526	短期借入金	600,000
売掛金	718,892	リース債務	667
仕掛品	412	未払金	79,572
貯蔵品	1,109	未払費用	371,471
前払費用	55,372	未払法人税等	101,038
その他	10,091	預り金	65,924
<b>固 定 資 産</b>	<b>1,602,616</b>	賞与引当金	315,773
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>1,237,125</b>	その他	101,174
建物	530,859	<b>固 定 負 債</b>	<b>697,828</b>
減価償却累計額	△265,146	退職給付引当金	452,400
建物(純額)	265,712	役員退職慰労引当金	245,427
構築物	6,677		
減価償却累計額	△6,172	<b>負 債 合 計</b>	<b>2,333,450</b>
構築物(純額)	505		
工具、器具及び備品	30,606	<b>純 資 産 の 部</b>	
減価償却累計額	△28,366	<b>株 主 資 本</b>	<b>3,810,570</b>
工具、器具及び備品(純額)	2,240	資本金	377,525
土地	968,059	資本剰余金	337,525
リース資産	5,202	資本準備金	337,525
減価償却累計額	△4,595	利益剰余金	3,149,602
リース資産(純額)	606	その他利益剰余金	3,149,602
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>13,273</b>	別途積立金	150,000
ソフトウェア	11,768	繰越利益剰余金	2,999,602
その他	1,505	<b>自 己 株 式</b>	<b>△54,081</b>
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>352,217</b>	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>3,810,570</b>
長期前払費用	64		
繰延税金資産	326,019	<b>負 債 純 資 産 合 計</b>	<b>6,144,020</b>
その他	27,933		
貸倒引当金	△1,800		
<b>資 産 合 計</b>	<b>6,144,020</b>		

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 損 益 計 算 書

(令和5年4月1日から  
令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	5,660,130
売 上 原 価	4,365,821
売 上 総 利 益	1,294,309
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	740,131
営 業 利 益	554,177
営 業 外 収 益	1,500
営 業 外 費 用	4,738
経 常 利 益	550,939
特 別 利 益	98
特 別 損 失	56,621
税 引 前 当 期 純 利 益	494,417
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	187,981
法 人 税 等 調 整 額	△82,151
当 期 純 利 益	388,586

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 株主資本等変動計算書

(令和5年4月1日から  
令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		資本準備金	資本剰余金 合 計
当期首残高	377,525	337,525	337,525
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	377,525	337,525	337,525

	株 主 資 本					純資産 合 計
	利 益 剰 余 金			自己株式	株主資本 合 計	
	その他利益剰余金		利益剰余金 合 計			
	別 途 積 立 金	繰越利益 剰 余 金				
当期首残高	150,000	2,770,023	2,920,023	△81	3,634,991	3,634,991
当期変動額						
剰余金の配当		△159,008	△159,008		△159,008	△159,008
当期純利益		388,586	388,586		388,586	388,586
自己株式の取得				△54,000	△54,000	△54,000
当期変動額合計	-	229,578	229,578	△54,000	175,578	175,578
当期末残高	150,000	2,999,602	3,149,602	△54,081	3,810,570	3,810,570

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 棚卸資産

仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～50年

構築物 10年～40年

工具、器具及び備品 2年～10年

##### ② 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。

##### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産につきましては、リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (3) 引当金の計上基準

- ①貸倒引当金 売上債権その他これに準ずる債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ②賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。
- ③退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。  
退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。
- イ. 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
- ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法  
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌事業年度から費用処理しております。
- ④役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社役員規程に基づく期末要支給額を計上しております。

### (4) 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務に係る収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

当社は、機械設計、電子設計、ソフト開発の技術者サービスによるアウトソーシング事業を行っております。

これらのサービスは、主として労働者派遣契約または請負契約に基づき行われ、労働者派遣契約は、一定の期間にわたり移転されるサービス、請負契約は、一時点で移転される財またはサービスとして判断しております。

労働者派遣契約による売上高は、顧客企業からの指揮命令を受けて行う技術者の役務提供により履行義務が充足され、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。また、進捗度の測定は、時の経過に基づき行っております。

請負契約による売上高は、顧客企業への成果物の納品及び検収により履行義務が充足され、顧客企業が検収した時点で収益を認識しております。

取引の対価は、履行義務を充足してから主として2ヵ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。



(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

控除対象外消費税等の会計処理 資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

2. 貸借対照表に関する注記

顧客との契約から生じた債権の残高及び契約資産の残高は、それぞれ以下のとおりであります。

売掛金	659,706千円
契約資産	59,185千円

3. 損益計算書に関する注記

売上高のうち、顧客との契約から生じる収益の額 5,660,130千円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	3,975,300株	一株	3,975,300株

(2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	99株	45,000株	一株	45,099株

(注) 自己株式の数の増加は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得45,000株による増加分であります。

(3) 剰余金の配当に関する事項

①配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
令和5年6月29日定時株主総会	普通株式	159,008千円	40円	令和5年3月31日	令和5年6月30日

②基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
令和6年6月27日定時株主総会	普通株式	利益剰余金	196,510千円	50円	令和6年3月31日	令和6年6月28日

- (4) 当事業年度の末日における新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く）の目的となる株式の種類及び数  
該当事項はありません。

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資計画、資金繰り計画に照らして、必要な設備資金及び運転資金を銀行借入れにより調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用しております。

#### ② 金融商品の内容及びそのリスク

当社の財務状況に重要な影響を与えると考えられる金融商品は、現金及び預金、売掛金、借入金であります。営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。借入金は、運転資金目的及び設備投資目的によるものでありますが、償還日は最長で決算日後1年以内であります。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

##### a. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、各営業所が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

##### b. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

担当部署が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

#### ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

令和6年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

①資産

「現金及び預金」、「売掛金」については、現金であること、または短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似するものであることから、記載を省略しております。

②負債

「短期借入金」については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似するものであることから、記載を省略しております。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

賞与引当金	94,858千円
賞与引当金法定福利費	13,465千円
退職給付引当金	135,901千円
役員退職慰労引当金	73,726千円
未払事業税	6,274千円
その他	6,001千円
小計	330,226千円
評価性引当額	△4,206千円
繰延税金資産合計	326,019千円
繰延税金資産の純額	326,019千円

## 7. 収益認識に関する注記

- (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報  
分解した収益の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

アウトソーシング事業	
一定の期間にわたり移転されるサービス	4,848,579
一時点で移転される財またはサービス	811,550
顧客との契約から生じる収益	5,660,130
売上高	5,660,130

(注) 単一セグメントであるため、セグメント別の収益の内訳は記載しておりません。

- (2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報  
「重要な会計方針に係る事項に関する注記(4)収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

- (3) 当事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

①顧客との契約から生じた債権、契約資産の残高

(単位：千円)

	当事業年度期首	当事業年度期末
顧客との契約から生じた債権		
売掛金	683,912	659,706
契約資産	64,150	59,185

(注) 契約資産は主に、顧客との契約について期末日時点で一部または全部の履行義務を果たしているが、まだ請求していない財またはサービスに係る対価に対する当社の権利に関連するものであります。契約資産は、対価に対する権利が無条件になった時点で債権に振り替えられます。

②残存履行義務に配分した取引価格

当社は、個別の予想契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

## 8. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たりの純資産額 969円56銭  
(2) 1株当たりの当期純利益 97円91銭

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

令和6年5月13日

株式会社ヒップ  
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人  
東京オフィス

指定有限責任社員 公認会計士 高 屋 友 宏  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 長 崎 善 道  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ヒップの令和5年4月1日から令和6年3月31日までの第29期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査役会の監査報告

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの第29期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
  - ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
  - ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
  - ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果  
会計監査人アーク有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

令和6年5月17日

株 式 会 社 ヒ ッ プ 監 査 役 会  
常 勤 監 査 役 石 樽 享 司 ㊞  
社 外 監 査 役 佐 藤 正 八 郎 ㊞  
社 外 監 査 役 前 田 泰 志 ㊞

以 上



## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、業績並びに当社を取巻く経営環境や将来の事業展開に備えた内部留保等を総合的に勘案し、安定配当の維持に努めることを基本方針としています。

第29期の業績は堅調に推移し、今後の事業展開と株主還元の充実を総合的に勘案した上で、株主の皆様へ一層の利益還元が可能と判断し、当期の期末配当につきましては、前期末配当より10円増配することとし、1株当たり50円といたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金50円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は196,510,050円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
令和6年6月28日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 提案の理由

当社事業の現状に即し、事業内容の明確化を図るとともに、事業内容の多様化に対応するため、現行定款第2条（目的）につきまして事業目的を追加及び削除するものであります。

また、事業目的の追加及び削除に伴い号数の変更を行うものであります。

### 2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

（下線部分は変更箇所を示しております。）

現行定款	変更後
（目的）	（目的）
第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。	第2条 （現行どおり）
1. ～7. （条文省略）	1. ～7. （現行どおり）
<u>8. 医薬品、化粧品及びビタミンなどの栄養素を補給した栄養補助食品の開発受託</u>	（削除）
<u>9. 医薬品の臨床試験の管理の受託</u>	（削除）
<u>10. 医薬品、医薬部外品、医療機械器具、医療用具、衛生用品、計量器、化粧品、清涼飲料水及び食品の販売及び輸出入</u>	（削除）
<u>11. 医療に関するコンサルタント業</u>	（削除）
<u>12. 医薬品、化粧品に関わる研修会、講演会、文化教室等の企画、立案及び運営</u>	（削除）
<u>13. 有料職業紹介事業</u>	<u>8. 有料職業紹介事業</u>
<u>14. 訪問看護、訪問介護及び訪問リハビリテーション等の治療サービスの提供並びにそれに関わるコンサルティング業務</u>	（削除）
（新設）	<u>9. 人材育成、能力開発のための教育研修事業</u>
（新設）	<u>10. 人材育成、能力開発に関するセミナーの企画及び運営、講師の派遣</u>
（新設）	<u>11. 不動産の賃貸及び管理</u>
<u>15. 前各号に関連又は附帯する一切の業務</u>	<u>12. 前各号に関連又は附帯する一切の業務</u>

### 第3号議案 取締役6名選任の件

取締役全員（7名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役会において機動的に意思決定が行えるように1名減員し、取締役6名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者 番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する 当社の株式数
1	たなか のぶ あき 田中 伸 明 (昭和52年10月15日)	平成13年4月 当社入社 平成18年4月 中部事業部名古屋営業所長 平成19年10月 経営企画部課長 平成21年4月 営業企画部課長 平成25年2月 株式会社コスメックス出向 取締役事業推進部長 平成28年6月 当社取締役 平成29年6月 当社取締役 企画部長 平成30年6月 当社取締役 企画部長 経理担当 令和3年6月 当社取締役 企画部長 総務担当 令和4年4月 当社取締役 経営企画部長 令和4年6月 当社専務取締役 経営企画部長 令和5年8月 当社代表取締役社長 (現任)	43,400株
2	おお ほん たつ りゅう 大原 達 朗 (昭和39年10月8日)	平成18年11月 当社入社 平成21年4月 中部事業部 営業担当部長 平成24年7月 東海・北陸統括部 統括部長 平成27年4月 神奈川・静岡統括部 統括部長 平成28年11月 中日本事業部 特命部長 平成30年2月 執行役員 中日本担当 令和元年6月 取締役 中日本担当 令和2年10月 取締役 中日本事業部長 令和4年4月 取締役 事業本部長 中日本担当 令和4年10月 取締役 事業本部長 令和5年8月 取締役 事業本部長兼 経営企画部長 (現任)	2,900株

候補者 番号	氏名 (ふりがな) (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する 当社の株式数
3	くら かけ たつ や 倉 掛 達 也 (昭和43年6月20日)	平成12年5月 当社入社 平成20年4月 西部事業部 事業部長兼 大阪営業所 所長 平成24年7月 近畿・九州統括部 統括部長兼 大阪営業所 所長 平成26年4月 近畿・九州統括部 統括部長 平成27年4月 東海・北陸統括部 統括部長 平成28年11月 西日本事業部 特命部長 平成30年2月 執行役員 西日本担当 令和元年6月 取締役 西日本担当 令和2年10月 取締役 西日本事業部長 令和4年10月 取締役 西日本事業部長 中日本担当 令和5年6月 取締役 西日本事業部長(現任)	7,600株
4	な やま いつ ひこ 陶 山 五 彦 (昭和55年5月5日)	平成20年3月 当社入社 平成26年5月 関東・東北統括部 統括部長代理兼 東京営業所 所長 平成28年11月 東日本事業部 特命部長 平成30年2月 執行役員 東日本担当 平成30年6月 執行役員 神奈川担当 令和2年10月 執行役員 神奈川事業部長 令和4年6月 取締役 神奈川事業部長 (現任)	300株
5	おい かわ よし まさ 及 川 善 雅 (昭和33年1月27日)	昭和54年7月 有限会社五善商事入社 平成3年6月 株式会社コスモ測量入社 平成4年9月 株式会社コスモトレーディング 入社 平成10年4月 株式会社プレス設立 代表取締役(現任) 平成27年6月 当社社外取締役(現任)	6,800株
6	いけ だ ゆみ こ 池 田 由 美 子 (昭和50年9月9日)	平成10年4月 テルモ株式会社入社 平成19年12月 EY新日本有限責任監査法人入社 令和3年9月 池田公認会計士事務所開設 (現任) 令和4年6月 当社社外取締役(現任)	500株

(注) 1. 各候補者と当社の間には特別の利害関係はありません。

2. 各候補者の所有する当社株式数は、当事業年度末(令和6年3月31日)現在の株式数を記載しております。

3. 及川善雅氏及び池田由美子氏は社外取締役候補者であります。
4. 社外取締役を除く各候補者の選任理由は次のとおりであります。
  - (1) 取締役候補者田中申明氏は、今年度より代表取締役社長に就任以降、力強いリーダーシップを発揮し、当社の事業推進に大きく貢献しております。その実績、能力、労働者派遣業界における長い経験とともに人格、見識とも優れ、今後の当社の企業価値の更なる向上を強力に推進するために適切な人材であると判断し、引き続き取締役候補者といたしました。
  - (2) 取締役候補者大原達朗氏は、長年にわたる労働者派遣業での業務実績と、当社においても全国の事業部を取りまとめる責任者としての豊富な経験と実績に基づく経営管理能力を有し、今後さらなる貢献が見込まれることから引き続き取締役候補者といたしました。
  - (3) 取締役候補者倉掛達也氏は、労働者派遣業において豊富な経験があり、当社においても近畿・九州地方における事業責任者としての幅広い知見と取締役として十分な業務実績を有し、今後も当社の事業発展への貢献を期待できることから引き続き取締役候補者といたしました。
  - (4) 取締役候補者陶山五彦氏は、神奈川県を中心とした関東圏における事業責任者としての経験・実績・見識を有しており、今後の当社における成長戦略の策定・実現への貢献に大きく資することが期待されるため、引き続き取締役候補者といたしました。
5. 社外取締役候補者の選任理由及び期待される役割の概要は次のとおりであります。
  - (1) 社外取締役候補者及川善雅氏は、企業経営者としての豊富な経験とその経験を通して培われた幅広い識見を有しております。当社の今後の事業戦略に様々な観点から助言いただくことができると判断し、引き続き社外取締役候補者となりました。今後も、経営陣から独立した客観的な立場から、事業運営に関わる事項に関し、適切な助言や監督をすることを期待しております。
  - (2) 社外取締役候補者池田由美子氏は、公認会計士としての豊富な経験と会計に関する専門的見地に基づく高い見識を活かし、取締役会において独立、公正な立場からご発言いただき、業務執行を監視・監督する役割を適切に果たしていただくことが期待できるものと判断し、引き続き社外取締役候補者となりました。今後も独立した客観的な立場から、業績等の評価を的確に行い、経営陣に対する実効性の高い監督を行っていただくことを期待しております。なお、同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役として、その職務を適切に遂行できるものと判断しております。
6. 及川善雅氏及び池田由美子氏は、現在当社の社外取締役ですが、社外取締役としての在任期間は本株主総会終結の時をもって及川善雅氏が9年、池田由美子氏が2年となります。
7. 当社は、及川善雅氏及び池田由美子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

#### 第4号議案 補欠監査役1名選任の件

令和5年6月29日開催の第28期定時株主総会において補欠監査役に選任されました加藤丈尚氏の選任の効力は、本総会の開始の時までとされており、法令に定める監査役員の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

補欠の監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴 (重要な兼職の状況)	所有する 当社の株式数
かとう たけ ひさ 加藤 丈 尚 (昭和52年3月2日)	平成16年2月 加藤税務会計事務所入所 平成26年7月 上名古屋税理士法人入社 (現任)	30,100株

- (注) 1. 加藤丈尚氏が所属する上名古屋税理士法人と当社は顧問契約を締結しております。
2. 加藤丈尚氏は、補欠の社外監査役候補者であります。
3. 加藤丈尚氏を補欠の社外監査役候補者とした理由は、税理士の補助者として高度な専門的知識を当社の監査に反映していただくことを期待したためであります。なお、同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外監査役として、その職務を適切に遂行できるものと判断しております。
4. 加藤丈尚氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員要件を満たしております。なお、当社は加藤丈尚氏が所属する上名古屋税理士法人と顧問契約を締結しておりますが、当事業年度における取引額は60万円と少額であり、社外監査役としての独立性を十分有していると判断しております。同氏の選任が承認され、社外監査役に就任した場合には、同取引所に独立役員として届け出る予定であります。

## 第5号議案 退任取締役に対し退職慰労金及び特別功労金贈呈の件

令和5年8月2日に逝去されました故代表取締役田中吉武氏及び本總會終結の時をもって任期満了により退任されます常務取締役廣瀬透氏に対し、それぞれ在任中の功労に報いるため、当社役員規程に定める一定の基準に従い、相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することといたしたく存じます。

なお、それぞれの具体的金額、贈呈の時期、方法等は、取締役会の決議にご一任願いたいと存じます。

また、故代表取締役田中吉武氏は、平成7年の創業以来28年間に亘り当社の経営を担い、当社の発展に多大な貢献を果たしてまいりました。同氏の創業時からの功績と在任中の功労に報いるため、当社役員規程に基づき、前述の退職慰労金とは別に、功労加算金として特別功労金56,621,086円を贈呈することといたしたく存じます。

なお、贈呈の時期、方法等は、取締役会の決議にご一任願いたいと存じまず。

本議案は、当社において予め取締役会で定められた取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針と社内規程に沿って、取締役会で決定しており、相当であると判断しております。

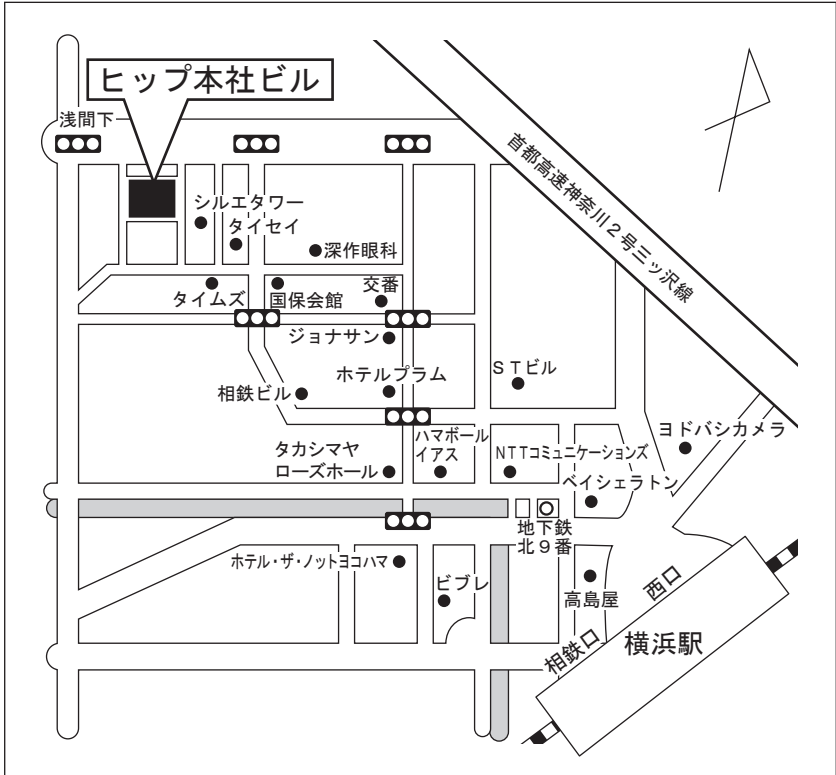
退任取締役の略歴は、次のとおりであります。

氏名	略歴
田中吉武	平成7年9月 当社代表取締役社長
	令和5年6月 当社代表取締役会長 兼 社長
	令和5年8月 逝去により退任
廣瀬透	平成18年6月 当社取締役
	平成29年6月 当社常務取締役（現任）

以上

# 株主総会会場ご案内図

会場：神奈川県横浜市西区楠町8番地8  
当社本店会議室 TEL 045-328-1000



交通：JR各線、東急東横線、横浜市営地下鉄線、京浜急行線、相鉄本線、みなとみらい線  
横浜駅 西口より徒歩約13分